

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月20日

【評価実施概要】

事業所番号	2170102962		
法人名	有限会社 徳藤		
事業所名	グループホーム マイ・ライフ		
所在地	岐阜県岐阜市下西郷4丁目80番地4 (電話) 058-293-0817		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル2階		
訪問調査日	平成19年7月7日	評価確定日	平成19年8月8日

【情報提供票より】

(平成19年 6月19日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年 3月19日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 5人, 非常勤 6人, 常勤換算	7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	63,930～	円	その他の経費(月額)	9,000～	円	
敷金	無					
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(90,000円)	有りの場合 償却の有無	無(ただし、3ヶ月未満 の場合半額返還)			
食材料費	朝食	350	円	昼食	400	円
	夕食	500	円	おやつ	150	円
	または1日当たり 円					

(4) 利用者の概要 (平成19年6月19日 現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名	
要介護1	3名	要介護2	2名			
要介護3	2名	要介護4	2名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	73.3歳	最低	64歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	かさい内科クリニック、平野総合病院、本荘歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

病院や県福祉施設、学校が近隣にあり、ホームの周りには田畑があり、とても静かな環境にある。今回の訪問時には趣味のカラオケをみんなで和やかに楽しんでおり、入居者同士のコミュニケーションも十分とれ、落ち着いた雰囲気である。要介護度が開所当初より高くなっているにもかかわらず、日々のケアがいき届いているため、食事、排泄などが大きく低下していない。管理者が看護師ということもあり具体的に細かい記録がなされ、入居者一人ひとりの生活の様子が把握しやすくなっており、入居者がよりよい暮らしができるよう考えている。看護師、介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員等の有資格者を確保しサービスの向上に努力されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>洗剤、漂白剤、その他の有害な物の収納場所は床下収納庫に変更され、刃物等は流し台下の収納場所に保管が徹底されている。口腔ケアについては、声かけや、確認が行われ入居者に徹底されている。研修についてはホーム内研修から外部研修へ移行できるよう、さらなる努力を期待す</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の自己評価で上げられた改善点を職員全体で改善できるように取り組んだ。今回の自己評価を職員や管理者と話し合いながら日頃の取り組みを再確認し、外部評価を受けることによって日頃気づかなかった部分を知り、サービスの幅や質的向上を図る前向きな姿勢が伺える。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を2ヶ月に1回開催し「グループホーム」を知ってもらうことからはじめている。今年度は自治会長が参加し、より地域に根ざしたものになっている。地域と共に歩む「グループホーム」を目指しながらこの会議を有意義なものとなるように職員全体で周知し、より良いケアにつなげていけるようこの会議を利用しようと考えている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の様子等は写真入でホーム通信を送っている。急用や面会等がない入居者の家族については、電話連絡をしている。金銭報告は領収書を添付し定期的に報告をしている。家族の意見・苦情等は、訪問時に家族から直接職員に伝えられることがあり、意見等は職員間で検討し、入居者がより安心して暮らせるよう運営へ反映している。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>施設は自治会に加入し、運営推進会議には民生委員の出席もある。地域の行事や活動にも入居者1～2人と共に積極的に参加している。近隣の散歩コースでは、畑で取れた花、野菜などの差し入れもある。近所の小学生も時々遊びに来ている。</p>

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者本位の理念が明確になっている。運営方針が具体的な項目として掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営責任者が直接ケアの場面でその都度理念を認識させる声かけをしている。職員会議で理念に基づいたケアを行うよう話し合う機会がある。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の清掃に入居者の数名が職員と共に参加している。運営推進会議で自治会、老人会等に積極的に働きかけ、地域の行事の参加や受け入れが行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善点であった洗剤や刃物等の保管は適切な場所へ移動し、改善の取り組みが確認できた。口腔ケアは職員の努力で習慣化になるなどの成果が出ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の出席者に入居者が特定しにくいようプライバシーに十分配慮した外部用のホーム通信を作成・配布している。	○	運営推進会議で議題に挙げられた災害時のマニュアルを早急に作らりたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現段階では地域のホームとして根付くためにも、市の担当者窓口には足を運んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの様子が良くわかる沢山の写真を利用した視覚による情報が中心となっている家族用「ホーム通信」を定期的に家族に配布している。金銭報告は領収書を添付し報告している。その控えはホームできちんと整理されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口は、家族に書面で説明している。家族の来訪時に要望を聞く姿勢で対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者を含めた職員の親睦会が年2・3回あり、職員が働きやすい環境心がけており離職者は極めて少ない。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望すれば勤務を調整し、外部研修に参加できる体制にある。視覚障害者の入居者があり、ケアに必要な研修が受講されている。常勤、非常勤の区別なく研修の機会はある。	○	多くの職員が研修に参加することが困難な時には外部研修や職員会議に出た課題の事例検討会等を内部研修にするなど研修の機会を工夫されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム運営協議会の学習会や交流会の機会を得ている。	○	近隣のグループホームとの情報交換や交流会の実現に期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者宅へ事前訪問し、本人及び家族との面接を行ったり、施設でのサービスを十分説明した上で見学も重ねて利用開始を心掛けている。利用検討の段階で昼間ホームでの体験を行うことは可能であるが、これまでに希望者はいない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	新しい方が入居された時には、これまでの入居者とのコミュニケーションの橋渡しに心掛けている。歌の好きな方が多くカラオケで懐かしい曲を皆で歌い、職員は教えてもらう側になっている。調理での野菜刻みや食器洗い等の場面では、褒める言葉かけや感謝の気持ちを伝えている。		

外部 評価 値	自 己 評 価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から、できることを引き出している。毎日記録される個別の介護記録から職員間で本人の思いや意向が話し合われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の状況把握は1時間ごとに個別に記録されている。さらに職員の申し送りや連絡ノートで個々の情報を共有している。介護計画はケアマネージャーを中心に職員の話し合いで作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しがされている。計画に基づいた適切な支援が行われモニタリングもされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の希望で短期間の入所を受け入れ、次の受け入れ施設につなげる取り組み事例がある。以前は夫婦での入居があった。視覚障害者の受け入れもしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設長と職員2名が看護師資格を持ち、医療機関と十分な連携をすすめている。すぐ対応可能な内科医と歯科医、総合病院での入院支援ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制があり、医療を中心とした日々の介護記録がある。看取りを視野に入れた対応を目指している。医療に関する家族の同意書類が整備されている。	○	書類の整備は十分であるが、さらに職員の具体的なチームケア方法や家族への対応マニュアルの整備をされるとよい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の穏やかな声掛けで、入居者に落ち着きが見られる。地域に発信する予定の通信は個人情報に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食後の歯磨きが習慣化された。居間にはカラオケセットが用意してあり、歌の好きな人が数人一緒に楽しんでいる。台所ではエプロンをして、調理を手伝う人もいます。見守る介護と、持てる力を引き出す介護をうまく活用している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や配膳は職員と行き、下膳など入居者が自ら動いている。お茶のポットが食卓テーブルに置かれ自由におかわりが出来る。食事を残される方は殆どいない。庭で収穫したしその葉を使うなどちょっとした工夫で食欲につなげている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は毎日沸かしているので、希望があればいつでも入浴は出来るが、1日おきのリズムで入浴している人が多い。明るく清潔な浴室である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	居間のカウンターの上に絵本が置かれていて誰でも自由に読むことができる。室外、室内に小型犬が飼われていて、ゲージ内で衛生に配慮した飼い方で、入居者の癒しになっている。洗濯干しは入居者が使いやすいように配慮してある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物外出には1～2名が職員と一緒に出かけている。ホーム周辺は畑や空き地になっており散歩に行っている。	○	日常的な外出の機会が少ない。また、外出が困難な人には庭に出て外気浴だけでも試みられたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居間と台所からはよく見通しの効く位置に玄関があり、常に見守りができる。鍵はかかっていなくドアチャイムで出入りが確認できるようになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練が行われている。運営推進会議で地域の協力を得られるように自治会長に働きかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの一日の水分補給量を把握している。1日2回の健康チェックと共に食事量、薬、排便の回数や量、尿の回数などが記録されている。毎日の献立はおおよその計画があるが、その日の職員が冷蔵庫の食材を見ながら考えている。	○	栄養バランスに配慮した献立に心掛けているが、時には献立記録から栄養バランスを検証することが望ましい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く明るい作りになっている。トイレも十分な広さがある。玄関からバリアフリーになっている。季節を感じる七夕飾りが居間にあり、季節を感じる配慮がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	転倒予防のために畳敷きの居室もある。仏壇や神棚の持ち込みがある。居室の入り口にはそれぞれ好みの柄の暖簾が掛けられている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。